豊肥保健所（竹田市・豊後大野市）感染症情報

令和7年第26週（6月23日～6月29日）

手足口病が報告されました

今週の豊肥保健所管内の定点医療機関からの報告数は、定点あたり0.33人でした。大分県全体では、定点あたり0.17人と先週の0.25人と比較して減少しています。

手足口病はウイルスが原因で起こる夏かぜの1つで、例年6～8月に流行し、子どもに多くみられます。発症すると、発熱や手のひら・足の裏や甲・口の中に水疱性の発疹がみられ、痛みやかゆみを伴うことがあり、食欲低下の原因となります。同じ時期に流行する疾患に、ヘルパンギーナや咽頭結膜熱（プール熱）などがあります。特にヘルパンギーナは、今週の大分県全体の報告で、定点あたり3.94人と先週の1.92人から増加しています。予防対策は共通しており、手洗い・うがいを行うこと、タオルの共用は避けること、プールの後はシャワーを浴びて目や口を清潔に保つことなどがあります。また、便中にウイルスが含まれ、治った後もしばらく排出されるため、排便後の処理は適切に行うことが重要です。

百日咳の流行について

全国的に百日咳の流行が続いており、第25週には累計35,810人となりました。大分県では、第1週から第25週までに累計254人の報告があり、第25週のみで42人、第26週のみでは34人（速報値）でした。県内保健所別では、大分市、西部（日田市・玖珠郡）、南部（佐伯市）の順で報告が多く、年齢階級別では、10～14歳が一番多く、次に15～19歳、5～9歳の順となっています。豊肥保健所管内からは、第25週に1人、第26週に1人（速報値）の報告がありました。

感染経路は、鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫感染や、感染者と接触したりすることによる接触感染とされています。手洗いやうがいなどの感染対策を行い、咳が出る場合は咳エチケットにご注意ください。

（第２６週）

疾患名／年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎（小児科県独自）	麻しん（全数報告）	風しん（全数報告）	百日咳（全数報告）	つつが虫病（全数報告）
0歳																	
1～3歳									0.33								
4～6歳		0.20						0.33									
7～9歳									0.33								
10～14歳																	
15～19歳																	
20歳以上		0.40				0.67											
今週		0.60				0.67		0.33	0.67								
70歳以上（再掲）																	
先週	0.20					2.00			0.67								

*指定された医療機関（定点）から報告された患者数を、1定点当たりに換算して計上しています。（定点医療機関数；インフルエンザ5定点　小児科3定点）

疾患ごとの警報・注意報の基準値　※単位は定点あたり報告数

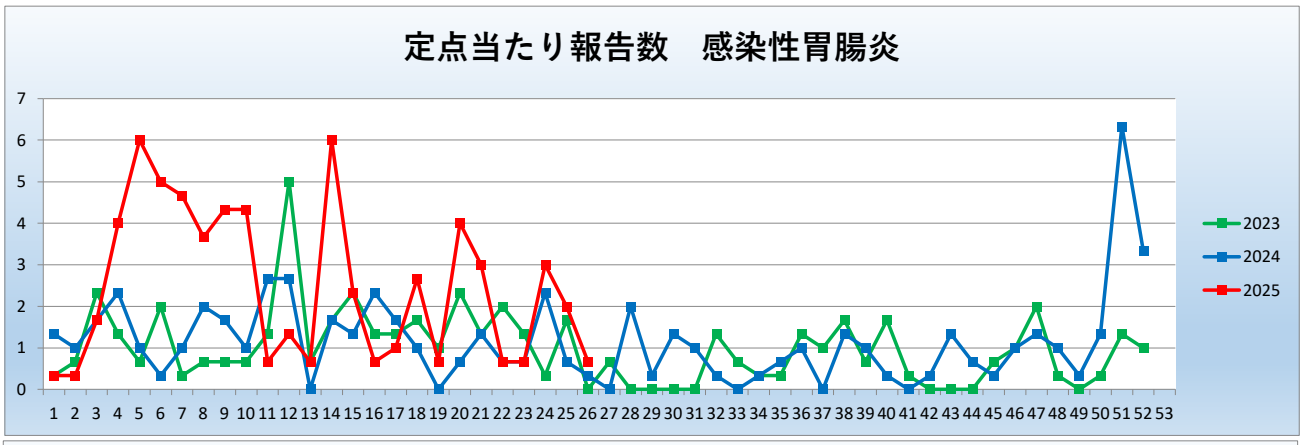
	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

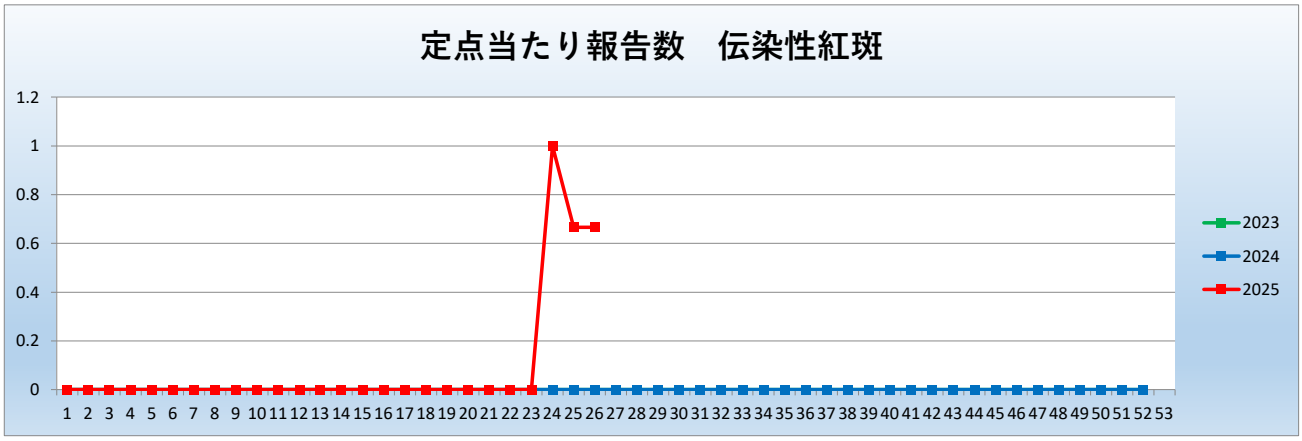
★ R5.8月1日より大分県は新型コロナウイルスの流行状況を、季節性インフルエンザの警報・注意報を準用してお伝えします。

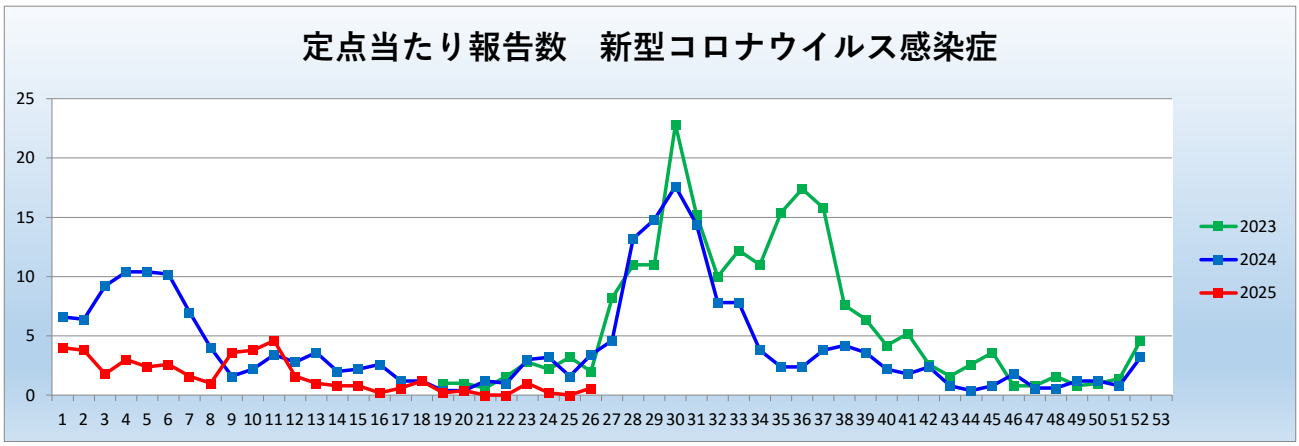
	警報レベル	注意報レベル	注意報レベル
新型コロナウイルス	30以上	20以上30未満	10以上20未満

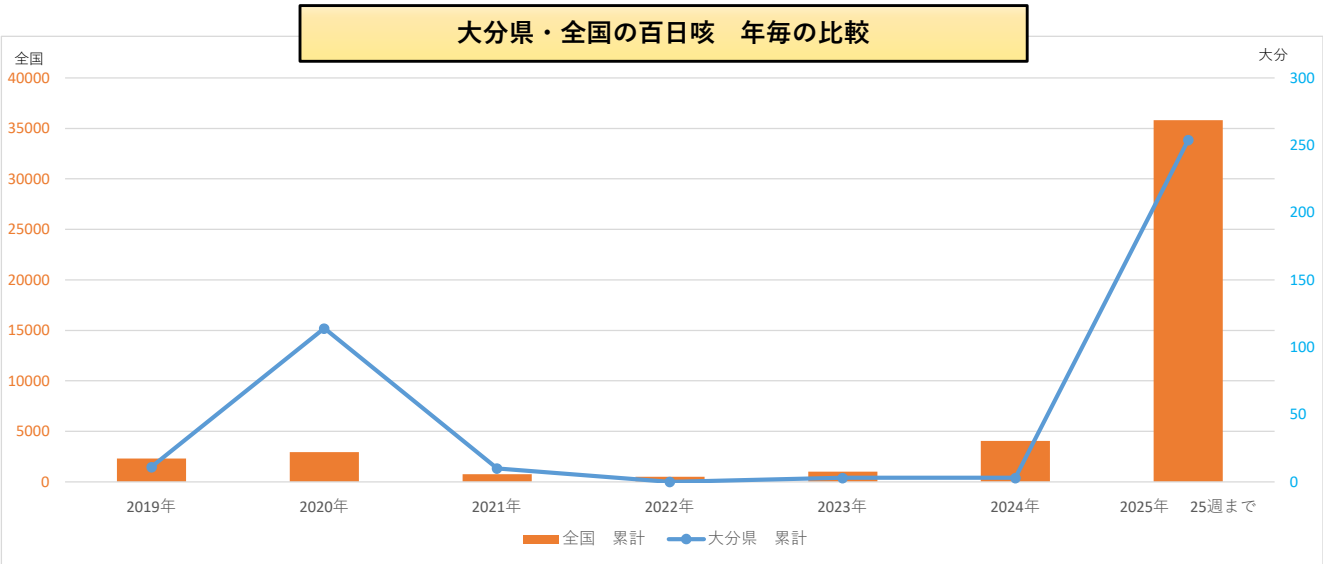
※警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。注意報レベルは、流行の発生前であれば今後４週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことを、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

豊肥管内 過去３年間の発生動向









お問い合わせ：大分県豊肥保健所　電話（０９７４）２２－０１６２

感染症対策

伝染性紅斑（でんせんせいこうはん）

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから
「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。

10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が最も多くなります。

こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは１週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

感染症対策

百日せきにご注意ください

百日咳菌の感染によって、激しいせきを特徴とする急性の気道感染症です。

乳幼児では、激しいせきによる

無呼吸発作（むこきゅうほっさ）

チアノーゼ
顔色や唇、爪の色が紫色に見える状態

けいれん

呼吸停止

に進展することがあります。

こんな症状がみられます

カタル期（約２週間持続）
かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

▼

痙攣期（けいれん期）（約２～３週間持続）
発作性、けいれん性の咳が出るようになります。合併症として肺炎や脳症などもあり、乳児では注意が必要です。

▼

回復期
激しい発作は次第に減衰し、やがて回復に向かいます。回復まで、全経過で約２～３か月かかります。

予防と対策

百日せきの予防には、生後２か月から定期接種として接種可能な５種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。ただし、接種後年数が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。

せきが続く場合は、医療機関の受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急 https://kodomo-qq.jp/」のサイトを参照したり、「＃８０００（こども医療電話相談）」にご相談ください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省
感染症対策課 2025年5月作成